
とある異能の幸福人生

ラヴィエンテ改

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある異能の幸福人生

【Nコード】

N5770Y

【作者名】

ラヴィエンテ改

【あらすじ】

今執筆中のものが手詰まりになってやらかしてしまいました。反省はしていますが後悔はありません。悲惨な人生を送った少年がとあるの世界に転生します。他人の幸福しか頭のない少年の物語が始まるー！主人公はかなりチートです。それを踏まえてお読みください。

プロローグ（前書き）

プロローグです。

プロローグ

「へ？」

そんな間拔けな声が口から漏れた。

先程死んだはずなのに、なぜか風情のある日本家屋にいた。

俺の名前は■ ■ ■ あれ？名前が思い出せない。

「ようやく気がついたようじゃの。」

声が聞こえた方を向くと、そこには好々爺が一人。

「あなた誰です？」

「わしはいわゆる神というやつじゃ」

「……………良い年して厨二病ですか。」

「違う！わしはツクヨミと呼ばれる神じゃ！」

「天照大神の弟さんですか？」

「珍しい。マイナーなわしのことを知っているとは」

なんか自虐オーラが……………

「それでじゃ。ここに呼んだのは他でもない。君を他の世界に送る

うと思つての」

「……………なぜ僕を？」

「簡単じゃよ。お主があまりにも不憫だったからじゃ」

不憫か。確かにそうかもしれない。散々虐待、いじめなんかを受けてたからな。でも

「そういうことならお断りさせていただきます」

「！！？何故じゃ！？」

「俺に使う力があるなら、他の人たちを幸せにしてあげてください」

「……………その心も気に入った！なに転生に使う力なぞ微々たるもんじやからの！氣にするでない！というわけで行き先は『とある魔術の禁書目録』の世界。能力はお前が今まで見たことのある創作物の全ての技じゃ！」

確かに生前、マンガが唯一の楽しみだった。だけでも……………

「色々突っ込ませてください！まず何故あなたがとあるのことを知って居るんですか！？次にチート過ぎますからそれはやめてください！—というか神様ってヲタクなんですか！？」

「大なり小なりあれど、神というのは皆ヲタクじゃ！姉上など腐女子じゃぞ！」

「今俺とんでもない事実知った！何！？天照大神って伊勢神宮で薄

くて高い本読みつつニヤニヤしてるの！？急速にイメージが崩れるんですけど！」

「スサノオの奴はコスプレイヤーじゃしの」

「この数千年の間に貴方に何が起きたスサノオ様！？つつか奥さんはどうした！？」

「家庭内別居中じゃ。千年程になるかの。なんでも彼女が発行しているスサノオを題材とした薄くて高い本に文句を言ったのが原因らしい」

「なんなの！？女性の神って腐女子ばつかなの！？」

「というか話がズレておるぞ！」

「すみません。能力は指定させてもらっても？」

「構わんよ」

「じゃあ一つ目はCODE：BREAKERの『音』の異能お願いします。レベルは五で。二つ目は『大嘘憑き』と『却本作り』オールフィクションブックメーカーを用に制限のある状態で。三つ目は『ネギま！？』からデメリット無しの『闇の魔法』と広域殲滅魔法を」

「それでは駄目じゃ。今までお主が受けてきた不幸と釣り合わんからの。これを相殺するには神具のオリジナルクラスでないとの……少し待っておれ」

神は電話を始めた。

「ああもしもしダーザか。今からエリンの四秘宝のレプリカを送ってくれんか？この前作り過ぎたと言っておったろっ……貸し一つ？馬鹿を言うな。これでお前がようやく一つ返したんじゃ。早めに転移してくれ。それじゃあの」

電話が終わった瞬間四つの球体が目の前に出現した。

「ブリュナク『神槍』リアファル『戴冠石』クラウソラス『閃光の剣』『魔釜』の四つをお主に与える。体に刻まれている四つの文字から呼び出せるからの」

何故三種の神器じゃないんだろう？まあいいか。これらかなり好きだし。有名だし。

「では、送るぞ……幸せにな。少年」

慈愛に満ちた表情でそんなことを言ってもらえた。

「ありがとうございます。また会いましょう」

その言葉を最後に、意識は闇に溶けた。

プロローグ（後書き）

次回は設定です。

主人公設定（前書き）

色々とむちゃくちゃです。ではぐっぐ。

主人公設定

名前 月詠 つくよみ 夜風 よかせ

身長 165 cm

体重 40 kg

容姿 ボサボサの黒髪にやる気の無い目、そこそこ整った子供っぽい顔。服は大抵学ランだが、私服の時はパーカーとジーンズばかりである。

胸には四つのルーン文字が刻まれている。

経歴 転生者。親に虐待、クラスメイトにいじめられた末殺害され、哀れに思った神によりとあるの世界に転生。

転生後しばらくして両親が他界。学園都市のとある高校に進学し、親戚である月詠小萌に引き取られる（学生寮に住んでいるのだが）。小萌とは叔母と甥の関係だが、昔からの癖で小萌ねーちゃんと呼んでいる。

転生前の人生の影響で、人に優しくされることに慣れていないため、少し優しくされると何倍にもして恩を返そうとする。それが発展して、『自分は他人を幸せにするために生まれてきた』という某生徒会長のような考えを持つに至る。なので上条になにかと世話を焼く。

週に一度は小萌の部屋の掃除に行っている。

能力

・『音使い（サウンドマスター）』のLevel15。序列は三位。
ただし原作通りLevel15は七人しか居ない。

音やそれに伴う衝撃波、振動などを操る能力である。そのためキャパシティダウンが通用せず、またキャパシティダウンと同じ周波数の音を発生させ、能力の発動を妨害することも可能である。また、この方法を使わなくても自分より下の序列ならまとめて相手をして粉砕できる程には強い。

上記のキャパシティダウン方式が効かない^{アクセラレータ}一方通行、垣根帝督、削板軍覇とは喧嘩友達で、よく殴り合っている。

御坂には敵視されており、視界に入るなり勝負を挑まれる。

・『大嘘憑き』『却本作り』

ポピュラーなスキルのため説明は割愛。ただ、使う度に激痛と出血を伴ったため、使用は控えている。

・^{マギア エレベア}『闇の魔法』

^{ゴクエンハオウ}『獄炎霸王』

『燃える天空』×2。体を黒い炎に変える。一度ついたら術者の意思でしか消せない。

^{キョクテンハウシン}『極天崩神』

『おわるせかい』×2。イノケンティウスを軽く凍らせる程の冷気を発する。

ライテンソウソウ
『雷天双壮』

『千の雷』×2。体を雷に作り変える。

詳細はwikiで。

・エリンの四秘宝

ケルト神話の宝具のレプリカ。緊急時以外は使わない。

ブリユーナク
『神槍』

先が五つに分かれた槍。ルーン文字『ソーン』から取り出せる。投げて手に戻る。

クラウソラス
『閃光の剣』

刀身が光る剣。ルーン文字『マザー』から取り出せる。圧倒的な熱を発し、相手を焼き切る。

リアファル
『戴冠石』

目の付いた紅色の立法体。ルーン文字『イング』から取り出せる。二人の人間を中に取り込んで闘わせ、勝者に王の器を与える。

『魔釜』

ルーン文字『イス』より展開される大量の魔方陣のこと。魔物を大量に召喚することができる。

・三級フラグ建築士

たまに女性にフラグを立てる。上条のように立てまくることはない。
自覚もある。

・魔法名『P r a e m i u m 4 8 7』

「不幸な者に正当なる報いを」

自らの経験から来た魔法名である。

主人公設定（後書き）

戴冠石と魔釜はARAGOという漫画を参考にしました。
感想をいただけると嬉しいです。

一話目 イレギュラー（前書き）

支離滅裂な文章ですいません。次回はちゃんとやります。

一話目 イレギュラー

夜風side

こんにちは。 ■ ■ ■ 改め月詠夜風です。

現在、入院中です。

転生して早十五年。 ようやくここにも慣れてきたと思っていたんですが

両親が自動車事故で他界しました。

後部座席に座っていた私は一命をとりとめ、入院しているというわけです。

…………… 親孝行の一つもしない内に死んでしまったな……………

これで孤児院行きだと思っていたのですが、

「夜風ちゃん、私の所…………… 『学園都市』 に来る気はないですか？」

目の前には手を差し出す小学生。

じゃなくて、小学生に見える大人。学園都市で教師をしている『月詠小萌』

過去におじいちゃんの法事で会った時には驚きましたよ。原作キャラが居たんですから。父の妹…………… 私にとっては叔母に当たります。余談ですが、父も童顔で背が低かったです。そして私は父に似ているらしいので、あまり背には期待しない方が良いでしょうね。

「…………… 良いんですか？小萌叔母さん？」

数年会っていないため、他人行儀な口調になってしまう。

「そんな他人行儀にしくなくてもいいですよ。昔のように小萌おねーちゃんと呼んでください」

やっぱり、優しい。身内になってみて分かったが、とても優しい人だ。

頼らせてもらおう。

「……………これからよろしくお願いします」

私は、差し出されたその手を取る事にした。

*

*

*

月日が経つのは早いもので、もう七月です。

学園都市に着いてすぐ『原石』であったことが伝わり（能力神から貰ったんで当たり前ですが）すぐにシステムスキャンを受けました。

結果はLevel 5。序列は3位。

……………結果の書かれた紙を受け取った時にはかなり驚き、そして恐怖しました。

あのツンビリ中学生を三位から陥落させたのです。間違いなく喧嘩を売られまくるでしょう。

ちなみに進学先とある高校にしたら、何度も考え直せと言われま

した。まあそうでしょう。

で、今現在

『待てやゴルああああああ！』

「不幸だあああああ！」

逃走中スキルアウトfrom不良集団with上条。

「上条！右手を離せ！能力が使えないだろうが！」

「嫌だ！友達なら見捨てないでくれ！」

「お前とまとめて音速移動してやるから！」

「音速に耐えられる程上条さんの肩は強くありませんとのことよ！？」

「大丈夫だ。お前なら再生する。多分」

「それどんな人外！？」

「まあとりあえず離せって」

「お前は血が赤くないのか！」

「ああ。緑色だ」

「嘘つけ！」

頑張っ て自分の力で寮まで逃げ切りましたよ。上条の奴……………人を巻き込んでくれやがって……………

しかし、今日は夏休み前日。つまり明日には禁書目録編開始っ てわけか。

まずはインデックスが神裂に切られるのを防ごう。神裂相手なら能力で問題ない。恐らく二回戦うことになるので、手の内を晒し過ぎるのはよろしくないだろう。

ステイルは上条に任せるとして、ペンデックスをどうしよう……………

あの宝具どもを使うわけにはいかないし。本気で行ったらフィアンマとか軽く終わる気がする。

上条の記憶破壊も防がないと……………

ええい、グダグダ考えるのはやめにして寝よう。いざとなったら己の魔法名の意味に従って行動しよう。

I『Premium487』

絶対にハッピーエンドにしてやる。それ以外は認めない。

一話目 イレギュラー（後書き）

次回は神裂との対決です。

それと、『レールガン超電磁砲』みたいな主人公の二つ名を考えていただけるとありがたいです。

二話 聖人 vs Level 15 (前書き)

相変わらず短い。

戦闘描写難しい……………

だれか！オラに文才を分けてくれ！

二話 聖人vsLevel 5

夜風side

ドアの前がガタガタうるさい……………って今何時ごろだ!?

17:00

そろそろだ。インデックスが危ない!

ドアを開けた瞬間、自分の腕に猛スピードで長大な刀が迫ってきていた。

「(ー!ー!ー!やばい!)」

とつさに腕から衝撃波を発生させ、刀を弾き飛ばす。相手ー神裂火織は驚愕の表情を浮かべて後ろに吹っ飛ぶ。

インデックスは鼻を抑えて倒れている。ちょうどドアが割り込んだから助かったらしい。

「なんで魔術師がこんなところにいの?意味わかんねえ」

「!?!?なぜ魔術のことを……………いえ、貴方には関係のないことです。おとなしく彼女を引き渡してもらえませんか?」

「いたいけな女の子を刀振り回すお姉さんに引き渡せ?寝言は寝て言え」

「……………七閃」

飛来する七つの斬撃。もっとも、原作知識でタネが割れている上マッハ5程度の動きなら完璧に見切れる目を持つ夜風には通用しないが。

「いきなり物騒だな。せめて場所変えようぜ」

七閃を叩き落としてつつ彼女に接近し、腕を引っ掴んで

音速で近くのビルの屋上に投げ飛ばした。もうもうと粉塵が上がっているが、仕留めきれてはいないはずだ。

案の定、屋上に飛び移ってすぐ、ワイヤーが飛んできた。

音の衝撃波で弾いたが、その一瞬の隙に神裂は懐に入り込んできた。まだ刀は抜いていない。素手でも倒せるとたかをくくっているのだろうか。

「……………Level 15 舐めんな!」

音を腕に纏わせ、ブーストがわりにしてカウンター気味の拳を振る

う。

神裂にまともに当たった。

衝撃で腕を覆う服が裂けるが、気にしている場合ではない。

「（……………聖人の耐久力ばねえ）」

咳き込みながらも起き上がった神裂の姿を見てげんなりした。普通の人間なら間違いなく腹に穴が空く一撃だったはずだ。

再びワイヤーが飛んでくる。先程よりも急所の近くを狙ってきたが

「タネの割れてる手品を何回も繰り返してんじゃねえよ！」

カマイタチを生み出し、ワイヤーを全て切断した。

「ええ。ですからそれは囷です」

―背後からの涼しい声と共に重い衝撃が背中を襲う。

強制的に肺の空気が押し出され、息ができないまま地面を転がった。追撃がくる前に体制を立て直す。

「気配消すの上手いな。全く見えなかったわ……………」

「これで彼女を引き渡す気になりましたか？」

「はっ。冗談言つなよ。真打もまだなんだし」

『あれ』は何度も使える物じゃない。やるからには一撃で決める。

夜風side out

三人称side

「……………真打？」

神裂の疑問のこもった声が響く

「見てりゃわかるよ……………」

薄く笑みを唇に貼り付けた夜風はトン、トン、とその場で不規則な垂直跳びを繰り返し、次の瞬間

ードンッ！

「なっ……………！？」

音を後ろに置き去りにするほどの高速の一撃を叩き込んだ。

周りの柵、床は移動の際に生まれたソニックブームで挟れている。

この一撃で意識を失った神裂はコンクリートの床にうつ伏せで倒れた。

「黒神ファントムならぬ、月詠ファントムってな」

悪戯っぽい笑みを浮かべながら、夜風はそう宣言した。

―ここに勝敗は決した。

二話 聖人 vs Level 15 (後書き)

テストのため更新が遅れるかもしれません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5770y/>

とある異能の幸福人生

2011年11月22日01時12分発行